

熊本の皆さんへ

また熊本の大地が、激しく揺れました。

平成28年の熊本地震から10年。あの日から、壊れた暮らしを一つひとつつなぎ直し、懸命に歩いてこられた熊本の皆さんのことを思うと、「なぜ、また熊本が」と、胸が締めつけられます。

このたびの地震で大切な命を失われた方々に、心より哀悼の意を捧げます。ご家族や大切な方を失われた皆さまに、謹んでお悔やみ申し上げます。

けがをされた方、避難を余儀なくされている方、家を失った方、離れたご家族の無事を祈り続けている方。今この瞬間も、恐怖と不安の中にいるすべての皆さんへ、心からお見舞い申し上げます。

どうか、今は無理に強くあろうとしないでください。

怖いときは、「怖い」と言ってください。苦しいときは、「助けて」と声を上げてください。

一人で耐えなくていいんです。

家も、仕事も、町も、みんなで力を合わせれば、時間をかけてまた築いていくことができます。だから今は、何よりも命を守ってください。

どうか、生きていてください。

私は平成28年の熊本地震の際、トレーラーハウスを被災地へ届ける支援に携わりました。そこで出会った熊本の皆さんの優しさ、苦しい中でも互いを気遣い、支え合う姿を、今も忘れたことはありません。

全国の災害現場を訪れるたび、最後に人を支えるのは、やはり人のぬくもりなのだと教えられてきました。差し出された一杯の水、温かい食事、安心して横になれる場所、そして黙って握ってくれる手。その一つひとつが、深い絶望の中に、小さな希望の灯りをともします。

だからこそ、私も言葉だけで終わらせません。

これまでの災害支援の経験と、全国で結ばれてきた仲間とのつながりを生かし、現地の声を聞き、本当に必要とされる支援を、必要な場所へ届けるために動きます。

急ぐべきときには急ぎ、待つべきときには待つ。被災された皆さんの負担にならない形で、今日だけでなく、明日も、その先も、熊本に心を寄せ続けます。

救命・救助や医療、避難所の運営、道路、電気、水道、通信の復旧など、眠る間もなく命と暮らしを守っておられるすべての皆さまに、心より敬意と感謝を申し上げます。どうか支える側の皆さんも、ご自身の命と体を大切にしてください。

熊本の皆さん。

今すぐ前を向かなくてもいい。立ち上がれなくてもいい。涙が止まらなくてもいい。

皆さんのそばには、手を差し伸べようとしている人がいます。遠く離れていても、皆さんの無事を祈り、力になりたいと願っている人が、日本中にいます。

熊本を、決してひとりにはしません。

人と人とのつながりの力で、これからも支え続けます。一人でも多くの命が守られ、一人でも多くの方が、大切な人と再び抱き合えることを、心から祈っています。